

石狩低地東縁断層帯の主部と南部の接合部の地質構造とその活動性 Geologic structures and their activities around junction of main part and southern part of the active eastern boundary f

小松原 琢^{1*}; 佐藤 智之¹; 康 義英¹; 尾崎 正紀¹; 小松原 純子¹

KOMATSUBARA, Taku^{1*}; SATO, Tomoyuki¹; KOU, Yoshihide¹; OZAKI, Masanori¹; KOMATSUBARA, Junko¹

¹ 産業技術総合研究所地質情報研究部門

¹Institute of Geology and Geoinformation, Advanced Industrial Science and Technology

石狩低地帯から勇払平野沖海域にかけて長さ 130 km の南北走向の断層褶曲帯 (石狩低地東縁断層帯) が存在する。この断層系は千島弧と東北日本弧の境界の一部をなしている。この断層系は低角東傾斜のスラストからなり、断層関連褶曲が発達する。石狩低地帯南部においては、断層系は勇払平野周辺の不連続と雁行配列によって2つに分けられる。主部は長さ 72 km、後期更新世以降の平均上下変位速度は 0.4 m/ky 以上である。南部は長さ 86 km、中期更新世後期以降の平均上下変位速度は 0.2~0.3 m/ky である。南部のうち陸上部分は短軸の背斜や短い単斜などからなる不規則で不連続な構造群をなす。この不連続な構造は石狩低地帯南部の不規則な基盤形状の影響を受けた結果と考えられる。

キーワード: 石狩低地東縁断層, 褶曲断層帯, 活断層, 平均変位速度, 地理情報システム

Keywords: Eastern margin fault zone of Ishikari Lowland, fold and thrust belt, active fault, mean displacement rate, geographical information system